

特 記 仕 様 書

配水池塗装工事

目 次

1	保安及び衛生	P. 1
2	発生材の処理	P. 1
3	衛生管理	P. 1
4	一般事項	P. 1
4.1	材料	P. 1
4.2	検査	P. 2
5	施工一般	P. 2
5.1	総括事項	P. 2
6	仮設工事	P. 2
6.1	仮設計画	P. 2
6.2	工事用電力設備	P. 3
6.3	工事用給水設備	P. 3
6.4	排水設備	P. 3
6.5	足場工	P. 3
7	外壁防水	P. 3
8	スラブ防水	P. 4
9	濁水処理	P. 4
10	保証	P. 4
11	外面塗装材	P. 4

1 保安および衛生

- (1) 工事現場の管理は労働基準法、労働安全衛生規則その他関係法令に従って適当な諸施設をし、火災、盗難その他事故防止に注意しなければならない。
- (2) 現場内は常に整理整頓し、一部工事を終了した時はその部分毎に後片付け清掃を行い、清潔さを保持するよう努めなければならない。
- (3) 工事は昼間行うことを原則とするが、現場の状況によりやむなく夜間作業を行う場合は、あらかじめ発注者の許可を得るとともに、照明その他の保安設備を設けなければならない。
- (4) 工事施工場所を明示する標識および現場の安全維持に必要なすべての設備を設けなければならない。
- (5) 台風、豪雨等風水害に対する万全の措置を講じなければならない。
- (6) 受注者は、工事施工のため交通を禁止あるいは規制する必要があるときは、関係官公署と十分協議し指示を得て、必要な箇所に指定の標示をするとともに、事故防止に万全を期さなければならない。

2 発生材の処理

- (1) 産業廃棄物の処理については、マニフェスト伝票もしくは電子マニフェストを使用し、その処分地は、各都道府県の産業廃棄物の許可を受けた処分地とする。なお、竣工時には各産業廃棄物のマニフェストを適切に管理し、その集計表を提出すること。工事現場が隣接又は同一場所において施工する別途工事と競合する場合は、相互に協議して紛争を起こさないように処理しなければならない。
- (2) 本工事により発生する建設廃材については、再資源化施設に搬出し資源リサイクルの促進に努めること。
- (3) この工事における建設物等の分別解体等及び建設資材の再資源化に当たっては「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（「建設リサイクル法」という。）を遵守すること。

3 衛生管理

受注者は、水道施設内又はその付近での工事施工に当たっては、水道法など関係法令を遵守し、衛生管理に十分注意する

4 一般事項

4.1 材料

- (1) 本工事に使用する材料はすべて受注者が調達するものとする。

- (2) 各種材料は、特に指定するもの以外は、日本工業規格（以下(JIS)という。）、日本農林規格（以下(JAS)という。）、日本水道協会規格（以下(JWWA)という。）等に適合したものとする。
- (3) 材料の購入にあたっては、その仕様について発注者と十分打合せを行い、承認・承諾を受ける。
- (4) 使用材料のうち、調合を要するものについては、発注者の立会いを得て調合する。ただし、発注者が適切と認めた場合は、見本検査によることができる。
- (5) 加工して使用する材料については、加工後に発注者の検査を受けるものとする。
- (6) 工事用材料の合格品は、指定の個所に受注者の責任において変質、不良化しないよう保管する。
- (7) 工事用材料は工事工程表に基づき、工事の施工に支障を生じないよう現場に搬入する。

4.2 検 査

- (1) 工事用材料は、使用前にその品質、寸法等又は、見本品の検査を受け、合格したものとする。ただし、発注者が認める規格証明、製品証明、試験証明の書類を有するものは、検査を省略できる。
- (2) 材料検査に際して受注者はこれに立会うものとする。立会わない場合、受注者は検査に対し、異議を申し立てることはできない。
- (3) 検査および試験のため、使用に耐えなくなったものは所定数量に算入しない。
- (4) 材料検査に合格したものであっても使用時になって損傷、変質したときは新品と取り替え、再び、検査を受ける。
- (5) 不合格品は、直ちに現場より搬出する。

5 施工一般

5.1 総括事項

- (1) 受注者は、工事の出来高、品質等がこの仕様書、設計図書等に適合するよう十分な施工管理を行うこと。
- (2) 試験、調査に際しては、あらかじめ計画書を受注者が用意し、発注者立会いの下で行う。

6 仮設工事

6.1 仮設計画

- (1) 工事着手にあたって現場をよく把握し、他工事請負業者とも十分協議のうえ、仮設計画書を作成提出し、発注者の承認・承諾を受ける。

- (2) 仮設計画書は、前項の施工条件を満足する工事工程表、使用機械計画書、工事用道路、工事用電力および用水設備、排水設備、水替工等を添付する。
- (3) 発注者が仮設工の必要個所、体裁等について指示した場合は、迅速に施工する。
- (4) 仮設構造物は常時点検し、必要に応じて修理補給するとともに、その機能を十分発揮できるようにする。

6.2 工事用電力設備

- (1) 施工に必要な電力は、発電機を用いる等、受注者が用意するものとする。ただし、既存の電線から仮設電力等を利用する場合は(2)～(5)のとおりとする。
- (2) 現場において電力（動力および照明）を使用する場合の電力設備費、電力料金、維持管理費、関係諸官庁等への手続きに要する費用等の一切を受注者が負担する。
- (3) 施工にあたっては、「電気設備技術基準」等関係諸法規を遵守し、かつ、工事終了後は速やかに撤去する。
- (4) 電力設備には感電防止漏電遮断器を設置し、感電防止に努める。
- (5) 高圧配線、変電設備には危険表示を行い、接触の危険のあるものは、必ず柵、仮囲い等により感電防止を行う。

6.3 工事用給水設備

- (1) 工事用給水設備は、受注者の負担において行う。
- (2) 受注者は、工事に支障のないようにする。

6.4 排水設備

- (1) 工事用排水、常時の排水、豪雨時の排水を十分考え、現場の地形、状況をよく調べ、発注者とも十分協議のうえ仮設排水計画を行う。
- (2) 水替は、工事の施工に支障をきたさないよう、必要に応じて昼夜にかかわらず実施する。

6.5 足場工

足場工は、十分な支持力を有し、振動等でくるいを生じないよう堅固に設置するものでその構造図および計算書を発注者に提出し、承認・承諾を得る。

関係法令・規則を遵守し、手すり先行工法（手すり据え置き方式もしくは手すり先行専用足場方式）によること。

工事中の粉塵等が飛散しないように、処置すること。

7 外壁防水

- (1) 既存の塗装及び既設のモルタルが浮いて剥離している箇所を高圧洗浄で撤去し、モルタルを使用して段差修正する。
- (2) 高圧水で洗浄した後、複層塗材にて塗装を行う。

- (3) ひび割れが発生している箇所の補修は、Uカットシール工法を採用する。
- (4) 降雨、または降雨になる可能性がある場合は、作業を中止する。
- (5) 予期せぬひび割れ等の変化については、発注者と協議し、対処方法を決定する。
- (6) 塗膜防水及び塗装に支障をきたす欠損等を発見した場合は、その補修方法等について協議を行うものとする。

8 スラブ防水

- (1) コンクリートに付着した汚れ、油脂分は洗浄する。
- (2) 使用材料製造業者の仕様に基づき適正に施工を行う。
- (3) 降雨、または降雨になる可能性がある場合は、作業を中止する。

9 濁水処理

- (1) 現場で発生した濁水は、ノッチタンクで濁水処理しコンクリートガラ等を分離する。
- (2) 処理後の排水の pH 処理は、三重県生活環境の保全に関する条例で定める基準に従い、水素イオン濃度 (pH) を 5.8 以上 8.6 以下に調整した後、排水する。

10 保証

外壁塗装の性能を 10 年間保証すること。特に塗装の大きな剥離や漏水などが生じた場合は受注者の負担により処置対策を検討し、発注者の承諾を得て適切な処置を講ずること。保証書の提出については、使用材料製造業者が認める施工工事店が、一連して工事管理を行っている場合とする。

11 外面塗装材

塗装材仕様は以下に示す。また、仕上がりは塗りむら、塗残りを生じないように入念な施工を行なうものとする。

外壁部：複層塗材 RE 水系エポキシタイル 凹凸模様 水系ウレタン吹付
屋 根：高強度ウレタン防水